

2) 特定の語・句・節を否定する場合には、原則としてその直前に **not** を置く。

類例 Yumi is **not good** at speaking English. 由美は英会話がうまくない。

It was Paul, **not John**, who wrote “Yesterday.”

『イエスタデイ』を書いたのはジョンではなくポールだった。

I bought this sandwich **not because I liked it**, but because there was nothing else in the store. 私がこのサンドイッチを買ったのはそれが気にいったからではなく、ほかのものが何も店になかったからだ。

※文法的には、I did **not** buy this sandwich because I liked it. とすることもできるが、「気に入ったから買わなかった」などと変な誤解を生む文となるため、避けたほうが良い。

ここが Point! 否定のかかる範囲

否定の作用の及ぶ範囲は、常識で判断するが、あいまいな場合もある。

※ただし、実際の会話では音調で分かることも多い。because の前に通例休止を置かないし、文末は下降上昇調となる。それらが書かれたものの場合は、because の前に通例コンマを置かない。

(1) I didn't go to college **because** my father told me to.

この文を「父がそうしろと言ったから大学に行かなかった」と訳すのは誤り。この文での not は I went to college を否定しているのではなく、because ... 以下まで全部含めて「父が行けというから大学に行ったのではない」と文全体を否定しているのである、と常識的に考えて判断する。

(2) I didn't go to college yesterday **because** I was sick.

これは「病気だったので昨日は大学に行かなかった」という意味である。この文では not は I went to college yesterday のみを否定している、ということは、この文の場合は常識的に考えて明らかだからである。

(3) James didn't fall in love with Jane **because** she had short hair.

この文はちょっと曖昧である。「ジェイムズはジェーンがショートカットだったから恋に落ちたのではない（他の理由で恋に落ちた）」と言っているのか、「ジェイムズはジェーンがショートカットだったから恋に落ちなかった」と言っているのかは、文脈がないとわからないのである。

こうしたあいまいさを避けるためには、James fell in love with Jane, but it was **not because** she had short hair. とするか、James didn't fall in love with Jane.

It was because she had short hair. とすればよい。

もっと単純には、「ジェイムズはジェーンがショートカットだったから恋に落ちなかった」の意にするために, James didn't fall in love with Jane, because she had short hair. (＼) のように休止・コンマを入れて, 下降調にする方法もある。《書》ではとりあえずコンマを入れておけばいいが, 《書》でよりはっきりと示し分けるためには, ここで示されているように it is (not) ... の形を用いることになる。

2 never

- ⑤ I **never** buy second-hand books. 私は絶対に古本は買わない。 587
- ⑥ John is **never** polite. ジョンは決して礼儀正しくはない。 588
- ⑦ I will **never** forget what you have done for us. 589
あなたが私たちのためにしてくれたことは、決して忘れません。
- ⑧ I have **never** had Mexican food. 590
私はこれまでメキシコ料理は食べたことがない。

never はもともと not + ever (=at any time) であり、「これまで一度も…ない」という意味や「(どんな場合でもいつも、ずっと) 決して…ない」という意味になり、強い否定を表す。現在完了では、通例⑧のように、〈have [has] + never + 過去分詞〉となる。

否定される要素	never を用いた否定の形
be 動詞	〈be 動詞 + never〉 ⑥
一般動詞	〈never + 動詞〉 ⑤
助動詞	〈助動詞 + never + 動詞の原形〉 ⑦

類例 My grandma **never** eats hot dogs without ketchup.

おばあちゃんは決してケチャップぬきではホットドッグを食べない。〔主語が 3 人称単数の時、動詞の呼応でしばしば s をつけ忘れてしまうので注意すること〕

Never leave your house without an umbrella in the rainy season.

梅雨には決して傘を持たずに外出するな。

【!】 現在完了では、通例⑧のように、〈have [has] + never + 過去分詞〉となる。ただし、never を強調するために、I **never** have had Mexican food. のように、have の前に置く場合もある。また、there 構文では通例〈there + be 動詞 + never〉の語順だが、強調のために〈there + never + be 動詞〉となる場合もある。

There never was an actor like him. 彼のような役者は今までにいなかった。

※ Have you ever seen a ghost? (幽霊を見たことある?) に対する答えで「一度もないよ」という場合には、No, I haven't. ないしは No, I never have. となり、× I have never. とはならないので注意。

類例 **Not all** the passengers were hurt in the accident.

〔部分否定〕 その事故ですべての乗客がけがを負ったわけではない。

cf. **No [Not any]** passenger was hurt in the accident.

〔全否定〕 その事故でけがをした乗客は 1 人もいなかった。

I haven't seen **all** these DVDs.

これらの DVD をすべて観たというわけでない。

〔「全部…というわけではない」という意味の部分否定〕

I can't eat **both** of these sandwiches. 両方のサンドイッチは食べられない。

〔「両方は…ない」という部分否定〕

It's **not always** easy to do well in school.

学校でいい成績を取るのは必ずしも簡単なことではない。

cf. It is **always not** easy to make a living as an artist.

芸術家として食べていくのは、いつの時代でも容易なことではない。

〔この場合、always は not の作用域の外にあるので、部分否定にならない〕

【!】 例外的に、not が all の後に来ることもある。これが部分否定になるかは文脈で判断できる。ただ、紛らわしいときは、no, none を使うようにしよう。

All that comes cheap is **not** necessarily the best.

安いものが必ずしも最良のものではない。

19では、「平等なしでの自由などはない」という二重否定となり、「あらゆる自由は平等を伴う」という強い肯定を意味する。

19' ≡ Freedom **must** accompany equality.

類例 It is **not uncommon** for Japanese workers to work long hours.

日本人労働者が長時間働くのは珍しいことではない。

My father **never** leaves home **without** taking his umbrella.

私の父は外出するときは必ず傘を持っていく。

It is **never impolite** to speak up in the class.

クラスで自分の意見を主張するのは決して無礼なことではない。

She **never** greets us **without** a big smile on her face.

彼女はいつも私たちを満面の笑顔で迎え入れてくれる。

I **can't** imagine life **without** the Internet.

インターネットなしの生活など私には想像できない。

練習問題 4：以下の英文を日本語に訳しなさい。

→解答 p.414

- ① I never see these photos without remembering the club activities at high school.
- ② It is not unusual for them not to bring umbrellas when it rains.

《I》主節の動詞を否定する場合

日本語では「…ではないと思う」と否定的内容を言ったり考えたりする場合に、英語では I think + 否定文という形より、20のように主節の動詞を否定し、I don't think ... と表現するほうが多い。

原理

that 以下の従属節を否定して、I think that we can't win the next game. とするのは一般的ではない。I think + 否定文だと、「…ではないと思う」という否定的な態度を断定するように感じられてしまうため、I don't think ... としてそのニュアンスを弱めて使うほうが好まれるためである。

類例 I don't think humans can live on the moon.

人間は月面では暮らせないと私は思う。

コーパス 「I don't think (that) 節」型で用いられる動詞

anticipate (…と予想する), believe (…と信じる), expect (…と予想する), feel like [as if] (…のような気がする), guess (…と推測する), imagine (…と想像する), seem / appear (…のように見える), sound like [as if] (…のように思われる), suppose (…と推定する), think (…と思う) など

類例 I don't believe (that) you can finish your homework by tomorrow.

私はあなたが宿題を明日までに終わることができるとは思わない。

【！】 (1) 《話》では、前出の内容を否定する考えを述べるときは I don't think so. を用いる。また、この形は相手の誘いを断るときにも用いられる。いずれも、単に No. と答えるよりいねいな言い方。

“Is he reliable?” “I don't think so.”

「彼は信頼できるの」「そうは思わないけど」

“Would you like some dessert?” “No, I don't think so.”

「デザートはいかがですか」「いや、やめておきます」

(2) I don't think 型の動詞では、that 節の代用としての not を使い、“I think not.” という形で「そうではないと思う」ことを表すことがあるが、《かたく》響く。特に、think や believe では I don't think [believe] so. の方が普通。

Coincidence? I think not. 偶然の一致でしょうか。私は違うと思います。